

令和5年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月20日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の定着を図るとともに、それらを活用する力を育むための柔軟なカリキュラムを策定する。</p> <p>②学び直しや協働的な学びを通して生徒が主体的に学ぶ意欲を高める。</p>	<p>①生活習慣・学習習慣の確立に配慮しながら、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得するよう指導方法を工夫・改善する。また、身につけた知識・技能を活用して、他者と協働して課題を解決しようとする意欲・態度及び能力を育成する。</p> <p>②新学習指導要領に基づく教育課程を計画的に実施するとともに、実施状況を評価し、その改善を図る。</p>	<p>①モジュール授業等において学習状況を把握するとともに学習習慣を確立する。学習内容の習熟の程度に応じた、課題学習、補充的な学習などの個に応じた学習活動を取り入れる。情報通信ネットワークなどの情報手段や教材・教具を適切に活用して学習活動を充実させるとともに、生徒のICT活用能力の向上を図る。</p> <p>②單元ごとに教科会において指導と評価の計画に基づく学習評価を行い、生徒の学習状況を把握し、指導の改善に生かす。</p>	<p>①学習の習熟度に応じた課題学習を授業全体の10%以上取り入れたことができたか。</p> <p>①Chromebookを授業全体の20%以上の場面で活用することができたか。</p> <p>①ICT活用能力の育成をテーマに授業改善の研修会を年間3回以上行うことができたか。</p> <p>②単元の終了ごとに教科会において指導と評価の計画に基づく学習評価を行い、生徒の学習状況を把握し、指導の改善に生かすことができたか。</p>	<p>①モジュール授業等において学習状況を把握して習熟度に応じた課題を取り入れることで、高校の授業内容にスムーズに入ることができた。</p> <p>①課題の提示（映像等）、意見、考えの発表（アプリJamboard）等、chromebookを授業で利用する機会が増え、20%以上の場面で活用できた。</p> <p>①生成AIの授業での利用をテーマに授業改善の研修会を2回行うことができた。</p> <p>②単元の終了ごとに、振り返りを行うように努めた。</p>	<p>①学習支援員等の人材を活用し、習熟度に応じた課題学習を授業内外で行い、学習意欲を高める。</p> <p>①校内研修会等において、Chromebookやアプリの活用例を共有する。</p> <p>①ICT活用能力の育成をテーマに授業改善の研修会を行う。</p> <p>②單元ごとに指導と評価の計画の見直しを行い、今後の授業改善に生かす。</p>	<p>ICTスキルの向上がみられる。</p> <p>生成AIの活用方法を検討して欲しい。</p>	<p>①入学する生徒が多様化する中で、4月当初のモジュール授業において学習状況を把握することで、習熟度に応じた課題学習を行うなど指導の個別化に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能の習得につなげる。</p> <p>①ICTの利活用、様々なアプリの利用を進めるため、職員向けの研修会を定期的実施し、職員の情報リテラシーを高める。</p> <p>②指導方法や評価方法の改善を組織的な取り組みとするため、授業改善研修会を定期的設定する。</p>	<p>①モジュール授業での学習状況の評価を「指導と評価の計画」の作成・実施に反映させ、基礎的・基本的な知識・技能の習得につなげる。</p> <p>①ICTの利活用、様々なアプリの利用を進めるため、職員向けの研修会を定期的実施し、職員の情報リテラシーを高める。</p> <p>②指導方法や評価方法の改善を組織的な取り組みとするため、授業改善研修会を定期的設定する。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①個々の生徒の多様なニーズに応じた適切な指導・支援体制を充実させる。</p> <p>②特別活動等を通して自己肯定感を高めるとともに、主体性や社会性、規範意識を育成し、豊かな人間性を涵養する。</p>	<p>①個々の生徒への支援体制の充実を目指し、SC、SSWや外部機関との連携をさらに充実、発展させ、活用する。</p> <p>②学校行事や部活動等の特別活動を通じて、自己肯定感を高め、何事にも主体的に取り組む積極性を育成する。</p>	<p>①スクールカウンセラーの配置に加え今年度スクールソーシャルワーカーが配置されたことを活かし外部の支援機関との連携をより密にし、生徒それぞれの状況にあった支援を徹底する。</p> <p>②行事や授業などを通じて生徒の自己肯定感及び社会の一員としての資質を高める指導を行い、他者に配慮する姿勢を身に着けさせる。</p>	<p>①外部の支援機関と連携し、生徒の個々の課題に対して有効な支援ができたか。</p> <p>②社会の一員としての資質を高め、個々の生徒が安心して学校生活を送れる教育環境を整えることができたか。生徒の自己肯定感を高める教育活動ができたか。</p>	<p>①SC、SSWを活かし、外部の支援機関と連携しながら、生徒の個々の課題に対して有効な支援を行う事ができた。</p> <p>また、SC、SSWとともにサポートドックを活用し生徒の課題を見つめ、解決する手立てを試みた。</p> <p>②社会人としての資質を高め、個々の生徒が安心して学校生活を送れる教育環境を整えることができた。</p> <p>生徒の自己肯定感を高めることには可視化することに課題が残った。</p>	<p>①SC、SSWを活かし、外部の支援機関と連携をさらに深化させる。</p> <p>②生徒の自己肯定感を高めることについてどの様に可視化させるのかが課題である。</p>	<p>サポートドックは良い取り組みだと思ふ。</p> <p>今後の活用に期待する。</p> <p>LGBTQなど多様性への対応も必要となる。</p>	<p>①SC、SSWと連携し教育相談事務局が主体となりケース会議を実施し、生徒の実態把握と実態に即した支援を行う事が出来た。</p> <p>サポートドックを活用し生徒の課題を見つめ、解決する手立てを模索した。</p> <p>②生徒が安心して学校生活を送れるよう教育環境を整えてきた。生徒が自身の成長や学びを実感として捉えられるよう学習や特別活動の内容のさらなる充実を模索する。</p>	<p>①SC、SSWを活かし、外部の支援機関との連携を深めるとともに、教育相談事務局の機能の充実に努める。</p> <p>LGBTQなど、多様性への対応も考えて行く。</p> <p>②生徒が達成感、自己肯定感を捉えられるよう取り組む。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月20日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	<p>①学年に応じた計画的なキャリア教育を実践し、生徒の進路意識を高めることで希望進路の実現に繋げる。</p> <p>②外部と連携したキャリア教育によって勤労観や職業観を育むことで社会的、職業的な自立を促す。</p>	<p>①生徒や保護者へキャリア形成について考える機会を提供するとともに、第一志望進路の実現のため、体系的な進路指導を行う。</p> <p>②コロナ禍により、計画どおりに行えていなかった外部との連携によるキャリア教育を実施し、社会人として必要な資質を身につけさせる指導・支援を行う。</p>	<p>①外部機関と連携したキャリア教育により、勤労観や職業観を育み、進路希望の実現化を図る指導・支援を行う。</p> <p>②希望進路の実現に向けて必要な資質の育成を目指し指導・支援する。</p>	<p>①希望進路の実現を支援し、進路未決定者を30%以下にすることができたか。また、進路に対する意識を高めることができたか。</p> <p>②生徒の自己実現に向けて学習指導を行うとともに、社会の一員としての資質を身につけさせながら向上させることができたか。</p>	<p>①希望進路の実現を支援し、実際の決定につなげられた。また、進路に対する意識を高めることができた。 進路未決定者は三修制においては25%と目標実現したが、四修制では40%となり、全体で33.3%となった。</p> <p>②生徒の自己実現に向けて学習指導を行うとともに、社会人としての資質を身につけさせることができた。 (進路データ) 三修制 4人在籍 就職1人 進学2人 四修制 5人在籍 就職3人</p>	<p>①生徒の進路に対する意識を向上させ進路未決定者を減少させる。</p> <p>②生徒の自己実現に向けて探究の授業等を活用し学習指導を行う事はできたが、社会人としての資質を身につけ、向上させることについては可視化する方法を考えたい。</p>	<p>進路活動での面接において、質問したことに答えていないことがある。質問したことに対する対応について指導して欲しい。</p>	<p>①希望進路の実現を支援し、実際の決定につなげられた。</p> <p>②生徒の自己実現に向けて学習指導を行い、社会人としての資質を身につけ、向上させることが出来た。 主体性を持って自己実現に向けて積極的に取り組む生徒が多い中、主体性を発揮できない生徒もいた。その点が課題である。</p>	<p>①生徒の進路に対する意識を向上させる、具体的な取り組みを考える。</p> <p>②生徒の自己実現に向けて具体的な方策を可視化して示す。</p>
4 地域等との協働	<p>①コミュニティースクールを活用し、保護者・地域との連携をより一層深め、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>②地域との交流を深め、積極的に地域貢献活動を行う。</p>	<p>①コロナ禍で停滞していた、生徒・保護者や近隣住民が参加できる地域連携を具体化し、地域の教育力を本校の教育活動に活用する。</p> <p>②地域の一員としての意識を高めるとともに、地域との交流を進め、地域貢献を推進する。</p>	<p>①コロナ禍で停滞していた様々な活動を推進し、保護者・地域との連携を図る。</p> <p>②コロナ禍で停滞していた地域との連携について、地域清掃、横定文化発表会で交流する機会を設定し、地域交流を推進する。</p>	<p>①保護者・地域との連携した活動を工夫して行うことができたか。</p> <p>②地域清掃・横定文化発表会において、生徒が積極的に地域と交流することができたか。</p>	<p>①コロナ禍で停滞していた保護者・地域と連携した活動を図る計画を立てた。地域との連携は図れなかったが、文化発表会で保護者との連携を深められた。</p> <p>②地域清掃・横定文化発表会において、生徒が地域と交流する事は出来なかったが、地域清掃は行うことができた。</p>	<p>①コロナ禍の制限が横高生が、地域清掃をしていくことが話題となった。定時制のことかと思われ、うれしかった。</p> <p>②地域清掃・文化発表会において、コロナ禍が開け、生徒が積極的に地域と交流する方法をどのように実施するか再検討したい。</p>	<p>横高生が、地域清掃をしていることが話題となった。定時制のことかと思われ、うれしかった。</p> <p>学校で実施の避難訓練の他、ぜひ自分が住む地域の訓練にも参加するようにして欲しい。</p>	<p>①地域貢献活動として、学校周辺の清掃活動を2回行うことができた。保護者・地域との連携が課題となる。</p> <p>②学校における避難訓練では、生徒・職員が真剣に取り組むことができた。学校周辺の地域の防災へと視野を広げることが課題である。</p>	<p>①地域清掃などの行事を保護者や地域の方へ公開する機会を増やすために、呼びかけの方法や一緒に活動する方法を検討する。</p> <p>②図上訓練を通して、「防災」の視点で学校周辺を知る機会を設ける。</p>
5 学校管理 学校運営	<p>①令和2年度末からの耐震工事に備えて環境整備を進め、教育環境への影響を最小限にとどめる。</p> <p>②HPをはじめとしたツールを活用し、学校からの積極的な情報発信を行う。</p> <p>③教職員の仕事を精査し、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。</p>	<p>①A棟の耐震工事及び仮設校舎終了後の仮設校舎からA棟への移転について安全に万全を期すとともに生徒の学習環境への影響を最小限に抑える。</p> <p>②HP等のツールを活用し様々な情報発信を行い、定時制への理解を深める。</p> <p>③Teams等を活用することによって業務の効率化を進めるとともに、情報共有を徹底し、組織的な学校運営を図る。</p>	<p>①工事の工程・状況について情報共有、業者も含めた連携を確実にし、安全な学習環境を確保する。</p> <p>②HP等のツールを活用し、常に新しい情報を発信するとともに、本校の良さを伝える機会を探る。</p> <p>③Teamsの更なる活用により、教員間の情報共有を円滑にし、グループ横断的な視点を持ちながら校務に当たれるよう体制を作る。</p>	<p>①耐震工事に際して適切な環境整備を実施できたか。</p> <p>①耐震工事に関する情報共有、連携が必要な時期に適切に行われたか。</p> <p>②HP等で最新の情報を掲載することができたか。</p> <p>③教員間での情報共有が徹底できたか、また、全体的な視点をもって個々の職員が業務にあたることのできたか。</p>	<p>①工事の工程・状況について情報共有を確実にし、安全な学習環境を確保した。</p> <p>②定期的な行事予定の更新、学校説明会等の情報発信を行った。</p> <p>③Teams等を活用することによって業務の効率化を進めるとともに、情報共有を進め、組織的な学校運営を図った。</p>	<p>①仮設校舎ABからA棟への移転後の環境整備。</p> <p>①仮設校舎撤去までの安全な教育活動の確保。</p> <p>②本校への入学を考える生徒に向けて情報発信に力を入れた。</p> <p>③グループ横断的な視点を持ちながら校務に当たれるよう体制の構築を図りたい。</p>	<p>教室の中のものの耐震化についても考えて欲しい。</p> <p>ものの置き方も注意が必要である。</p>	<p>①年度末の教務関連の業務や新年度の準備と並行して移転作業を事故のないよう進めることができた。</p> <p>②月毎の行事予定の更新、学校説明会等の情報発信を行った。</p> <p>③Teamsの活用により、業務の効率化と情報共有を進めることができた。</p>	<p>①校内美化に努め、快適な学習環境の維持に努める。</p> <p>②学校ホームページにおける学校案内、説明会などの広報活動の充実を図るとともに、ホームページにタイムラグのない情報が掲載できるように心がける。</p> <p>③Teamsによる校務の効率化を引き続き進める。</p>